

いてでございます。

現在の行財政の指標を見る限り、本当にこの15年間の取組の結果が出て、本当に改善計画に数値にも現れてるのではないかなと思っております。

また、そういった中で、こちらの行政改革委員が、糸魚川市行政改革推進委員会が大事になってくると思うんですが、去年とおととしの、令和3年と2年の答申を見て、やはり改善計画で出してるテーマは、なかなか委員の方が答弁しにくかったり、アイデアを出しにくいようなテーマな部分があるように見受けられまして、なかなかやっぱり答申結果も善処して頑張ってくださいとか、積極的に取り組んでいただきたいというような、もっと踏み込んだ答申内容をいただきたいと思いますので、そういった部分も検討しながら、また今後、今、見直しの年度になりますので進めていただきたいと思います。

そしてまた、最後、第3次総合計画が出てくるかと思いますが、によって大きな基本方針、6つの取組推進項目が来るかと思いますが、先ほど市長おっしゃったように、これからやはり完全な民営化、民間委託だけではなくて、その中間であります公民連携が大事になってきますので、そういった部分を踏まえて、議会としても公民連携条例や、そういった市民の皆さんと連携できる公民連携ガイドラインを庁舎で検討いただいたりする中で、進めていただければと思います。

最後に、アインシュタインの言葉で、どんな問題もそれを作り出したときの意識レベルでは解決できないという言葉があります。まさに、本当に今、緊急の課題は、そういった課題が今、目前に私たちが取り組んでいるわけですので、今までの常識を、パラダイムを1回取り払って、最新の知見やそういったものを取り入れながら、よりよい糸魚川、またそういった部分をしっかりと市、行政、議会、また市民の皆さんと一緒につくっていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

以上で、私の一般質問とさせていただきます。ありがとうございました。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、加藤議員の質問が終わりました。

暫時休憩いたします。

〈午前11時45分 休憩〉

〈午前11時46分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、伊藤 麗議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。〔6番 伊藤 麗君登壇〕

○6番（伊藤 麗君）

清新クラブ、伊藤 麗です。

昼食時限にかからないようにと3番目を選びましたが、来てしまいました。少しだけ動揺しておりますが、事前に提出いたしました通告書に基づいて、1回目の質問をさせていただきます。

#### 1、空き家の活用について。

全国的に社会問題となっている空き家の問題ですが、本市においても7月31日に市内で初となる行政代執行による空き家の除去が実施されました。今後、こうした対応が増えることが予想されることから、以下について伺います。

- (1) 市内で増え続ける空き家の問題を市民に対し、どのような働きかけ、対策の周知などを行っていますか。
- (2) 所有する空き家を住居や民泊、賃貸などとして活用しようとしたときに、UIターンの方向けの施策以外で市民が活用できる支援策はありますか。
- (3) 空き家所有者にとって活用するだけではなく、解体し、更地にするという選択肢も当然あると思います。危険空き家除却支援補助金の申請・利用件数は、どの程度ありますか。

#### 2、廃校の活用について。

少子化により、市内の小学校の統廃合への動きが進んでいます。その中で廃校のその後、民間や地域などが活用しようとした場合の協働のプロセスなど、以下について伺います。

- (1) 廃校の利活用として、市としての方針やお考えはありますか。
- (2) 廃校になった校舎を、単発のイベント、常設の事務所などとして使いたいという場合の相談先はどこでしょうか。
- (3) 常設での利用となった場合、利用目的などにもよるかもしれませんが、利用料など明確な取決めはされていますか。
- (4) 市内の障害者福祉に取り組もうとする団体・事業者が、放課後デイサービスなどを運営する際に利用できるようにしては、いかがでしょうか。

#### 3、子育て支援について。

不妊治療、妊娠、出産、子育てまで安心して過ごすことのできる糸魚川であるために、以下について伺います。

- (1) 妊産婦医療費助成について、出産日の翌月末までの医療費が対象となっておりますが、月初で出産された方と月末の方で不公平感があると言えます。出産日から2か月間などと平等に取り決める方針にしては、いかがでしょうか。
- (2) 市内産婦人科確保対策によって、糸魚川総合病院産婦人科の利用率に変化はあったのでしょうか。
- (3) 糸魚川市の子育て支援が手厚いかどうか、他市と比較などして初めて知ることができるものだと考えます。糸魚川市の子育て支援施策が子育て世代に喜ばれているのかどうか。全国取組も示しつつ、アンケートなどを実施してみてもは、いかがでしょうか。
- (4) 妊活中の方、妊婦さん、障害を持つお子さんのご両親などいかなる立場の方でも子育てに関わること、必要な情報を手に入れることのできるプラットフォームのような場所づくりが必要だと考えますが、いかがでしょうか。

以上で、私の1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、終活セミナーの開催のほか、死亡届の提出や施設入所の相談などで、ご親族が来庁される機会にパンフレットを配付し、空き家問題について考えていただいております。

また、市税の納税通知書にも空き家の適正管理について記載をお願いいたしております。

2点目につきましては、創業など、事業をして、空き家を活用する場合には、支援をいたしております。

3点目につきましては、平成29年度は3件、30年度から令和2年度は、それぞれ4件となっております。

2番目の1点目につきましては、統合により空き校舎となった場合には、地元関係者と協議しながら庁内関係課により活用方法を検討いたしております。

2点目につきましては、財政課が担当いたしております。

3点目につきましては、貸付料の取扱いを定めております。

4点目につきましては、運営の意向がある団体等の話を伺い、検討してまいります。

3番目の1点目につきましては、医療費助成は、医療保険制度と関連するため日割りの期間設定ができておらず、月単位となることから、出産日の翌月末までとしておりますが、対象月の延長により、検討してまいります。

2点目につきましては、平成28年度からは、産婦人科利用促進プロジェクトに取り組んでおり、市民の糸魚川総合病院における分娩の割合は、昨年度を除き、増加いたしております。

3点目につきましては、子ども・子育て支援事業計画や親子保健計画の策定時にアンケートを実施いたしております。

4点目につきましては、妊娠・出産から子育てまでの様々なニーズに対して、総合的な相談機能を担う子育て世代包括支援センターを設置しており、必要な方が必要な情報を入手することができるよう努めております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員の質問の途中ですが、昼食時限のため、暫時休憩いたします。

〔「再開の時間は」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

再開を1時といたします。

〈午前11時55分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

それでは、番号1の空き家の活用について、再度質問を申し上げます。

(1) についてですが、手元に老後に備えて考えるおうちのあれこれという資料があります。この資料には、空き家を放置することで、起こり得る問題や対策、空き家の所有者が活用できる補助制度についてなどが、とても分かりやすく記載されていました。死亡届提出時や終活セミナーでのみの配布ではなく、もっと幅広い方の目に触れるように継続的に広報紙などでも周知いただけるよう提言とさせていただきたいと思います。

続いてですが、8月7日に企画定住課主催で行われたO O B E N I Y A リノベーションLABに参加させていただきました。講師に空間デザインユニットであるg i f t \_さんを招いて、県内外で手がけた空き家、空き倉庫などの改修、リノベーションの実例と総工費などもざっくばらんにお話しいただきました。

個人的には、総工費などをざっくばらんにお話しただけでしたが、このくらいの広さでこういう施工をするとこのくらいかかるんだなというふうに、大変参考になったなというふうに感じております。実際に家族などが所有する空き家があったとしても、活用しようとしたときに一番気になるのは、それにかかるコストと、安価に済ませたくてもD I Yなどの知識やスキルが伴わず、なかなか一歩を踏み出せないということではないでしょうか。

そこで、(2) について、再質問いたします。

O O B E N I Y A リノベーションLABで、十日町のまつだいほくほく通りエリア内での景観再生事業として行われたカールベンクスプロジェクトとして、十日町に住所を置く方向けの空き家の活用としても利用できる上限360万円の補助金を給付していた事例を知りました。

糸魚川市もU I ターン者向けだけではなく、もちろん市内全ての空き家に対しては、とても無理であったとしても、このような思い切った施策を講じて、空き家活用の地域モデルづくりに取り組んでみてはいかがでしょうか。それについて何かお考えありますか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えいたします。

まず、議員には、8月7日の当課が行ったイベントにご参加いただきまして、非常に関心が高いのかなというふうにお見受けいたしました。

その上で、今の十日町市の事例を参考にご紹介いただきましたが、確かに糸魚川市のほうでもU I ターン者向けといいますと、やっぱりこちらのほうに土地もなじみもないし、やっぱり資金的に

もというところで応援の施策は考えております。

ただ、市内の方でも空き家を活用するということでは、市長答弁にもございましたように、創業してビジネスにつなげるとかというところの支援ですとか、あとやっぱりまちづくりの観点での取組であれば、面と向かって空き家の改修とかということは言わないんですが、十分活用できるような施策は打ってるところであります。

いずれにいたしましても十日町の事例も含めてなんですが、まずはやっぱりしっかりした目的だと思うんですね。目的がやっぱりぶれると駄目だと思います。それとあと、全域ではなくて、どこかやっぱりエリアを絞ってということも非常に大事だというふうに思います。そういったところで、今ある施策の中で、さらにはもっと活用できるような事由があるかどうか検討していかなければならないと思うんですが、何せ高額な補助になってまいりますので、やっぱり今度はそれを、手を挙げる方もしっかりとした収支の計画、それから補助金というのは1回だけです。複数回というのはございませんので、その1回のチャンスでしっかり事業として稼げるですとか、自走していけると。そういったところをわきまえながら事業展開というのは図っていく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

ありがとうございます。十日町の取組としては、景観再生事業ということですので、空き家だったり、その地域に住む方々のおうちの景観を統一性を持たせて再生していくという事業かと理解しております。

糸魚川市でエリアを限定して、こういった事業をしようとしたときにエリアを選定するというところなどでもいろいろと議論が必要になってくるのかなというふうに思いますので、簡単ではないとは思いますが、景観も整えながら、なおかつ空き家も再生されるという2つの意味合いを持たせたすばらしい事業だと思いましたので、ご提案とさせていただきたいと思います。

続きまして、O O B E N I Y A リノベーションLABでは、大紅屋を活用するとしたらどのような用途で、また、必要な設備など、それぞれで考えてみるワークショップ形式で行われていました。

次のステップに、実際に工具を使って壁にベニヤ板を打ちつけてみたり、壁紙を貼る。土壁を塗ってみるなど、より実技的なワークショップを開催してみたいはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えいたします。

確かにワークショップで壁やベニヤを使って工作をすると。行政でいいますと、よく事故があったらどうするとか、そういったところでできないとかいうところが多い場合もあるかもしれませんが、こういったD I Yのちょっと準じたものになります。私の事例では、民間で市街地の中で改修をかけたときに、お友達を呼んで、D I Yという形でやった実践例がございます。行政というよ

りも、むしろ民間でこういった事例があれば、まず試行的に展開してみて、その展開後の情報発信というところも含めて、調査研究はしていく必要があるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

民間でそういう取組をしたときに、例えば周知などを行政が手伝うだとか、そういった協働というのは可能でしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

やはり行政と民間、先ほども加藤議員の一般質問の中でございました公民連携という言葉で表現させていただきましたが、やっぱり民間、行政、行政としても何かやっぱり少しでも町の再生というところに生かせるという、生かしたいという願いと、民間はそれを活用して、やっぱりビジネスにつなげたい。そこら辺の目的がしっかり合致しているものであれば、行政と一緒にやっていきたいというように思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

それでは、（3）の危険空き家除去支援補助金の件について、再度お伺いいたします。

1年間で実施数が3から4件とのことですが、令和2年度の時点の調査で、危険または衛生上、有害のおそれがある状態とされる空き家が187軒とあります。危険空き家の定義を教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪又環境生活課長。〔環境生活課長 猪又悦朗君登壇〕

○環境生活課長（猪又悦朗君）

お答えします。

今、議員のほうで言われました空き家の実態調査で、特定空家相当ということで187軒ということでは、厳密には違っております。今回補助金の中での危険空き家というのは、今ご質問の危険空き家というものにつきましては、補助金を執行する上で要綱に定めたものになっております。

具体的な危険空き家の定義ということでございますけれども、この要綱の中では、市内にある建物で1年以上の使用のない状態であるもの、建築資材の飛散等により、近隣または公道に影響を及ぼすおそれのあるもの、不良度判定調査基準の評点が50点以上であるものということで、そちらのほうを危険空き家ということでは、お答えしております。

それで、調査するときの1つの判定としましては、今ほど申しあげました中の不良度判定調査基準というものがございまして、こちらのほうの点数によって、分けたということになります。この場合の点数につきましては、補助金の対象が50点以上ということになっておりますが、今ほどの187軒というのは、基本的には100点以上というような形で、かなり相当な、壊れる可能性があるというようなことで判断されるものということで考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

市民感覚で町を見渡したときに、結構危なそうだなと感じる空き家は何軒も見かけるんですけども、この補助金の対象となる要件の中で、先ほど課長におっしゃっていただいた住宅の不良度判定調査基準というものが、結構ハードルが高いものなのかなというふうにお察ししたんですけども、申請の、実際に実施されている件数は3から4件ということなんですが、申請自体は何件ぐらい、毎年あるんでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪又環境生活課長。〔環境生活課長 猪又悦朗君登壇〕

○環境生活課長（猪又悦朗君）

お答えします。

私も、現在事務の流れとしましては、まず、空き家を壊したい、その補助金をという案件で、まずご相談いただいているというところがございます。そのご相談を受けた段階で、担当のほうが発地に出向いて、今ほどの不良度判定を行うということになっております。その結果を相手様にお伝えして、該当になるか、ならないかというのをお伝えしているということになります。

例えば令和2年であれば31件の相談件数があった。そのうちの対象となったのが9件ありました。申請があったのが、4件ということになっておりますけども、ほかのものにつきましては、申請が今のところなかったというような状況でありますので、今後また出てくる可能性というのはあるだろうというふう考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

該当した9件に関して、全てが申請に至っていない、何て言うんでしょう、原因として考えられることは、市としてはどのようにお考えでいらっしゃいますか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪又環境生活課長。〔環境生活課長 猪又悦朗君登壇〕

○環境生活課長（猪又悦朗君）

実際にそういったご相談をさせていただいたところで、出てこなかったという案件の件でござい

ますけども、やはり、いわゆる相続が発生しているおうちであった場合、この補助金を出すためには、相続人皆様からの承諾が必要ということでもあります。そういった面で、関係者含めての意見がしっかりまとめるのに時間を要しているのかなというところ。

また、去年から今年にかけては、非常に雪も多かった。そのために解体業者さんもフル稼働というお話も聞いております。なかなかスケジュール的にも取れないというようなどころもお聞きしておりますので、そういったところ、もちろん資金計画等々もあると思いますけども、そういったところで今見合せている状況にもあるのかなというふうに判断しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

今後やっぱり申請件数も増えていくことが予想されますが、この補助金自体は、上限が、何て言うんでしょう、何件までとか、何件以上はもうちょっと財政的に受けることができないとか、そういった事前な何て言うんでしょう、制限というか、何件ぐらいだと行政の中でボーダーラインてありますでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪又環境生活課長。〔環境生活課長 猪又悦朗君登壇〕

○環境生活課長（猪又悦朗君）

空き家をご本人または相続人の方々から、自ら解体していただくと。それを支援するという意味での補助でありますので、基本的に上限というものは設けておりません。必要になったとき、年度予算が足りなくなるときには、補正または流用等で対応していきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

ご回答ありがとうございました。空き家の増加については、根底に人口減少の問題があると言えるところから、糸魚川市内でも、この先ますます空き家率が上昇し、それに対する問題、お悩みも増えていくことが予想されます。空き家を事業で活用したい場合は商工観光課、まちづくりとして活用する場合は企画定住課などに補助金などの相談をするような形になっていると思うんですけども、あと処分したいときは環境生活課というふうに、課をまたいで、何て言うんでしょう、相談する側はどこに行けばいいのかなと一瞬悩んでしまったりするような状況だと思っておりますが、今後、担当課をまたいで空き家対策チームなどを庁内プロジェクトとして取り組んでいくことも必要ではないかと考えますが、今のところ市としてのお考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕



○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

今、議員から3つの課、建物1つで3つの課という形でご指摘がございました。今、第3次総合計画の策定も進めております。やっぱりこれから増えていく空き家の窓口の一元化、専門的な住宅政策も含めた中でこのところは、私は企画の立場なんですが、組織機構を束ねる総務課ですとか、そういった部分としっかり相談して、対応してまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

ぜひそのようによろしく願いいたします。

では、番号2、廃校の活用について、再質問いたします。お答えいただいた回答を踏まえて、再質問いたします。

廃校は、ほかの用途への転用や活用するに当たって、建築基準法や消防法など法令上の規制により改修や耐震化工事を要する場合があります。費用がネックになると言えます。

しかし、廃校が、ただそこに存在するだけで発生する維持費、解体するにしても費用がかかること、閉校となった地域の衰退が心配されることなどから、積極的に活用する方法を地域と行政の間で対話を重ねていくことが必要と考えます。

今現在、完全に休眠している廃校の件数と維持費を大まかで結構ですので教えていただきたいです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

お答えいたします。

今現在、主立った利用がなく、利用等について模索してる施設というのが、廃校につきましては3件、旧浦本小学校、旧上早川小学校、旧市振小学校の3件になるかと思えます。こちらの3件につきまして、令和2年度の決算状況になるんですが、年間で約310万程度がかかっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

3件で300万円程度ということなので、1件で大体、何も利用しなくても100万円ぐらいの年間維持費がかかるということだと思います。

そこで、今現在、市内で既に活用されているワークセンターにしうみと、今井小学校の活用に至った経緯を知りたいので、教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

まず、旧南西海小学校になりますが、こちらが平成16年度末で閉校となっております。それ以降、奴奈川福祉会さんのほうから活用等の提案がございまして、21年の4月以降、校舎を社会福祉法人のほうに無償譲渡でワークセンターにしうみの開設になっているかと思えます。それ以降、22年の4月からは、体育館につきましては、社会体育施設として体育館の利用をしております。

次の旧今井小学校になりますが、こちらは24年度末で閉校となつとるんですが、27年の4月以降、教育研修センターと、あと職業訓練校という形で活用させていただいております。また、30年からは、テレワークについてお試しで稼働しております。31年の4月からは、テレワークのオフィスということで開設し、校舎のほうの利用をしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

ありがとうございます。廃校を利用している事例は、廃校を活用している事例は、全国にもいろいろあると思うんですけども、水族館にしたり宿屋にしたりというちょっと商業的に活用している例もあるとは思いますが、基本的には、やっぱり廃校になるということは、その地域が過疎地域であるということが前提になってくるかと思えますので、今回、今お話しいただいたような福祉的に活用していただくたりだとか、あとはテレワーク施設であれば、なんかそんなに人通りとかも関係ないのかなという気がしますので、そういう活用の仕方がとても合っているのかなというふうに個人的には感じております。

ただ、その地域が衰退していくということも心配されますので、教育の拠点としてだったりだとか、まちづくりの拠点として活用していく場合、例えば地域で廃校を維持管理していくというふう考えたときに、地域づくりプランなどを用いてはどうかと考えますが、地域づくりプランとは、どのように策定していくものなのか、教えていただけますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えいたします。

地域づくりプランというのは、行政が主体に、まずなるのではない。地域がやっぱり自主的、主体的に、自分たちの住んでるまちを、自分たちでつくる、かつ課題を解決する。ここが一番の主になります。そのことが、やっぱり住み続けられる地域になっていくというコンセプトでつくっているところでもあります。

まずは、いきなり話し合いを、地域へ入ってって、すぐにできるというものではございません。やはりいろんな地域の人との話し合いからまず始まって、小さく始まっていてもいいと思うんです。自治会というのがありますので、それと公民館、そういったところからのつながりをつくって、輪を広げていくと。公民館エリア全体で地域の課題解決に向けた自主的な動きを促すというのが地域

づくりプランになりますので、まずは小さく、その自治会、公民館を核として、話し合いから始めて、輪を広げていく。それから、自分たちの今の現状はなんなのか。地域によっていろんな課題が違ってきますよね。そこを解決する方法として、今言われた、例えば廃校を活用して何かできないかとか、人と呼ぶことができないかとか、そういった取組というのは、発展していけば非常に事例とすればいいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

補足させていただいて、お答えさせていただきます。

まず、廃校になった学校についての活用につきましては、まずはやっぱり校区の皆様方と、その利活用をどうしていくかということからスタートさせていただいております。やり取り、地元の方々が、あるいはこういうものが欲しいとかというものに持っていけないだろうかというのを行政とやり取りをさせていただきながら、いい方向性がそこで見い出せれば、そのまま行きますし、それで年数、ただ1年とか2年ではなくて、短期でも長期でもやはりそういったやり取りをしながら、まとめていく形でスタートいたしております。そして、どうしても地元の方々とそういったことがなかなかうまくいかないねといったときに、今度はやはり一般の方々のご意見、また、それを活用したいという方がいないかどうか。また、行政が、それをうまく行政だけで活用できないかを議論しながら、学校施設という建物でございますので、そう簡単に、小さい建物じゃないので、なかなか利活用は難しいんですが、そういったところを探りながら、そういった流れで行きます。その中で、今、議員ご指摘のようなところが入ってくるんだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

市長、ありがとうございます。今、市長から、とても大切なことをお聞かせいただいたのかなというふうに感じています。基本的には廃校になった建物は、地域で、その在り方だったりだとか必要なものを考えるというのが一番最初のことだよということですよ。ありがとうございます。

そうなってくると、今回、ワークセンターにしうみなどは、民間業者から活用したいという話があったということなんですけれども、放置されていた年数を考えると地域での活用が見込まれなかったもので、そのような形で話が進んでいったという理解でよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

経過につきましては、放置と申しますか、普通、閉校になった場合に、まず地元の方と協議を進める中で活用について考えてまいります。

また、併せまして庁内でも行政利用がないかという形で検討を進めてまいります。その中で地元のほう、福社会のほうから提案等もございました関係で、年度的には若干ちょっとかかっておりますが、そういった形で進めてきた経過がございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

廃校の活用についての考え方の順番が、非常に何て言うんでしょう、整理されたなというふうに、私の中で整理されたなというふうに感じています。ありがとうございます。

それでは、次になんですけれども、議員活動の中で糸魚川市での暮らしは、障害を持つ人や、その家族にとって、または高齢者の方にとって課題がたくさんあることが分かりました。こうした暮らしづらさは、人口流出にもつながることから、それでもやっぱり福祉の充実にも早急に取り組む必要があると考えます。

そこで、廃校を福祉的に活用している県内の事例を2つご紹介したいと思います。

1つ目は、お隣、上越市にあります上越福祉交流プラザです。こちらは福祉総合拠点が必要であるという、地域ではなくて、恐らく市役所内での議論があった上で廃校となった県立高田盲学校を活用した事例です。市役所福祉課同様の、各種手続を行うことができる福祉申請窓口があります。会議室として、借りて、利用することができるスペースのほかに民間の事業者が、放課後デイサービスなどを常設しています。福祉の向上目的に利用する際は、減免などが適用されるようです。

2つ目の事例なんですけれども、妙高市、旧姫川原小学校を改修した施設です。姫川原地区協議会と妙高市シルバー人材センターの2つが、指定管理者として運営しています。姫川原コミュニティセンターと高齢者生産活動センターの2つの機能が集約されています。シルバー人材センターの作業場や会議室、畳の敷かれた集会スペース、陶芸のクラブに間貸しするなどして活用されていました。

実際に、どちらも見に行ったんですけれども、恐らく1つ目の福祉交流プラザは、結構お金が使われているような建物になっています。2つ目の旧姫川原小学校に関しましては、耐震改修が済んでいた校舎だったため、大規模な改修も特に行われていないような印象、行われずに活用がされているような事例でした。

糸魚川市内にも福祉の向上を目的に活動されていらっしゃるボランティアの方、または法人が多数おられますが、新たな事業にチャレンジしようとしたときに、常設でできるような広さであったりだとか、最適な場所がないので踏み出せないというお声を頂戴いたしました。事業者やボランテ

ィアにとってもチャレンジできる場所が必要ですし、それが市内の福祉サービスの充実と暮らしやすさにつながると考えております。

廃校の福祉的な拠点が必要で、それが市内の福祉サービスの充実と暮らしやすさにつながると考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

なかなか活用されていない空き校舎について、福祉サービスでのご利用というご提案かと思いません。

市内では、福祉サービスは、特に高齢者ですとか介護保険のサービスは充実しているというふうに考えていますけども、障害をお持ちの方のサービスについては、やはり小規模な自治体ということで、なかなかサービスが行き届いてない面があるかと思えます。そういった方々が、例えば事業をやりたいといった場合には、その空き校舎をぜひ私どもも前向きに使っていただきたいということで協議をさせていただきたいというふうに思っています。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

ここまで福祉的な活用とさんざんお話しさせていただいたんですけども、廃校というのは、やっぱり地域での学びやが1つなくなったということだと思えますので、その地域の教育の拠点としての活用だったりだとか、そういった視点から何か活用の方法など、教育長、お考えございますか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

轟本教育長。〔教育長 轟本修一君登壇〕

○教育長（轟本修一君）

お答えさせていただきます。

福祉以外にも地域に密着した子供たちがいるわけですので、子供たちの学びの場、ましては憩いの場、あるいはお年寄りの人たちとの交流の場、いろんな多目的の利用が実現できるというふうに思っていますので、その地域の住民の人たち、特に子供たちの居場所というふうな面でも大変大事な場所になるんでないかなというふうにも考えています。

ご提言ありがとうございました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

ありがとうございました。私も同じように考えております。学校がなくなっても、その地域の子供が急にゼロ人になるわけではありませんので、引き続き、何か子供教育の拠点になるような活用の方法だったりだとか、後は、今はちょっとコロナ禍で難しいとは思いますが、他県の子供たちを呼んで、自然と一緒に、地元の子と他県の子と一緒に学べるような場所として活用されても素晴らしいことだなというふうに個人的には感じておりました、そういうふうな活用を地域が求めて、地域と行政で協力しながら進めていくことが必要なのではないかなというふうに感じました。ありがとうございます。

それでは、3つ目の質問に移らせていただきたいと思います。

子育て支援について、再質問いたします。子育て支援の（1）について再質問いたします。

母子共に健康に出産を終えて、経過も順調な場合、産後に受診する機会は、実はあまりありません。どちらかというと、流産や産熟期の経過が思わしくない場合に産後・妊産婦医療費助成を活用するケースが多いと思われまます。

先ほど市長から、期間を延ばすなど方法を検討していくとご回答いただきました。こういった背景がありますことから、産後利用期間を少しでも延長していただけますよう要望として申し上げます。

それでは、（2）について再質問いたします。

妊産婦が安心して暮らすために糸魚川総合病院の産婦人科の存続が必要であることから、産婦人科確保対策や利用者への満足度調査、要望伺いが引き続き必要と考えます。利用者からは、どのような声が上がってきていますか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

糸魚川病院でお産をされた方々から、アンケート形式で幾つか声をいただいております。そのような中で、LDRという部屋があるんですが、陣痛から分娩まで部屋を移動しなくてよかったんだと。それから、糸魚川総合病院で行っておりますお祝い膳、それからお祝いスイーツについては、入院中の楽しみであったと。またはアロママッサージ、こちらについては部屋の雰囲気がよくて、アロマのいい匂いに包まれて、リラックスできたというようなご意見をいただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

とてもポジティブなお声をありがとうございます。そのほかにもっとこうしてほしいなどと要望の声には、どのようなものが上がっていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

例えばお医者さんであるとか看護師さんの対応が、当事者にとってはちょっと残念だったというようなネガティブなお声というの、実際はいただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

ありがとうございます。私のほうには、助産師さんの対応が、すごくよかった。心強かったという声も届いておりますので、必ずしもソフトの面が、何て言うんでしょう、行き届いていないということではないとは思うんですけども。利用率を向上させていくためには、そういった声をぜひ病院側と共有して、さらなるサービスの向上に努めていただければと思います。

引き続き、質問なんですけれども、産婦人科確保対策以外に市として行っている利用率向上のための取組を教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

先ほど市長の答弁にありましたように、産婦人科プロジェクトというのを平成28年から行っております。その中では、出産奨励金、1件当たり5万円ではありますが、それを平成28年度から行っております。

また、赤ちゃん似顔絵プレゼントというのが、令和元年度から行っておりまして、奨励金については、全ての方から受け取っていただいておりますし、赤ちゃん似顔絵プレゼントについても、ほぼ全員の方からご利用いただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

喜ばれている施策ということですので、ぜひ引き続き、続けていっていただきたいと思いますが、さらなる何か、また利用率をさらに上げるような取組であったりだとか、啓蒙活動というんでしょうか、そういうものも引き続き続けていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

先ほども少し申し上げたんですけども、つい最近、糸魚川総合病院にて出産を終えた市民の方からは、助産師さんの対応が心強いものでありがたかった。お子さんに疾患が見つかった際に、市からの助成・援助を受けやすいようにと病院側から市への情報提供を行ってくれる旨の説明があり、産後で心も体も弱っているところに大変安心することができたなど、病院側でのソフト面での対応のきめ細やかさが非常に喜ばれたお声が届きました。

こうした声を市民の皆様にも周知、共有することで、今後の利用率増加につながっていくと考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今ほど伊藤議員から、いい提案をいただいたとっております。そういう利用者の喜んでおる声をもっと広く周知することで、糸魚川総合病院の利用率向上にもつながるものというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

ぜひよろしく願いいたします。

それでは、（3）の質問に対しての再質問をさせていただきたいと思います。

アンケートなどを実施されているということなんですけれども、子育て支援として糸魚川に必要な取組は何と行政は捉えていますか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

アンケートは、過去に何回も行っております。そのアンケートに基づいて、子ども医療費の助成の拡充や妊産婦医療費の助成を創設するなど、子育て支援策として反映しております。アンケートを採っても、非常に経済的な負担の軽減や非常に多岐にわたっているところなんですけれども、今、特にアンケートのご要望が多いのは、以前から雨天時や冬期間でも利用できる屋内遊技場の設置要望が、非常に多くの保護者から上がっております。以前からご要望いただいておりますが、実現できていないということで、市としても要望に応えていきたいというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

手厚い子育て支援ということで、その観点から、さらに質問させていただきます。

産前後ヘルパー派遣事業について伺います。

新型コロナウイルス感染症予防の観点から、県外への里帰り出産を控える妊産婦さんも多数いらっしゃるかと考えますが、コロナ禍中の利用率の向上などは見られましたでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

産前産後ヘルパー事業につきましては、体調等が悪く、家事などが行えずに、また、誰にも頼れ



ないということで、そういった方にヘルパーを派遣する事業であります。昨年度から開始した事業でありますけれども、昨年度は利用登録は4件でありました。本年度は、既に6件と増えている状況であります。中には、コロナの影響で里帰りができないので利用したいという方もいらっしゃいます。母子手帳の交付時に保健師が面談をしますので、こういった事業の、これに限らずそういった事業の存在をお知らせして、ぜひご利用につなげていきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

もし里帰りもできずに周りに自分の親などもない核家族世帯だったとしたら、非常に心細くて、産後、まだ体の状態もままならないときにすごくいい事業だと思いますので、1か月健診前にも訪問した助産師さんや保健師さんから、そういう気になる方だけではなくて、利用する可能性のある方というのは潜在的にもたくさんいらっしゃると思いますので、どんどん活用の促進を図っていただければと思います。

では、もう一つ質問させていただきたいんですけども、最近では、市内でも保育園や小学校が、コロナウイルス感染者の発生により臨時休校や臨時休園の措置がなされていますが、それに伴って保育園や小学校で誹謗中傷などが起きていないか心配しておりますが、市としてはどのような対応を取っていらっしゃいますか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

昨年初めからコロナウイルスが蔓延といいますか感染が始まりまして、それ以後、各学校、また園にそういったことのないようにということで、教育委員会のほうから指示といいますか通知を出しております。そういった園児同士なり児童同士の、あったときは、速やかに学校、園として対応をしていただいていると思っております。

ただ、学校や園で対応できないような問題もあるかもしれません。今のところはないというふうに思っておりますが、そういったところは、こども課、こども教育課で連携して対応していきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

ありがとうございます。私も自分の立場で自分なりにそういう誹謗中傷だったり差別的な行動・言動をしないようにと呼びかけてまいりたいと思います。

(4)について、それでは再質問いたします。

一貫的な子育て世代への支援として、こども支援室というものが設置されているというお話だっ

たんですけれども、ホームページから概要を確認しましたが、今まで糸魚川市が既に取り組んでいる内容が書かれているだけという印象で、特に目新しさはなかったのですが、妊婦から育児をする過程の中での困り事は、ここに相談すると縦も横も区切りなく素早く共有・対応がされるという理解でよろしいのでしょうか。具体的に今までの体制とは、ここが変わったんだという部分を教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

議員おっしゃるとおり令和元年度から包括支援センターを設置いたしました。糸魚川市は、それ以前から妊娠から出産、育児に係る相談窓口として、こども課を窓口として設置して、専門職も配置しまして、相談があれば関係者で共有して対応しております。包括支援センター、妊娠からというところで包括支援センターを設置にというわけではありません。設置したからというわけではありませんけれども、各係で話し合うことによりまして、産前産後のやっぱりサポートというのが非常に弱いと。非常にといいますか手薄だということが分かってきましたので、それで、先ほど申し上げた産前産後ヘルパーの派遣ですとか、今年から始めた母乳相談費用の助成などを開始したところであります。

議員おっしゃる情報の提供というところは、非常にうまく提供していかなければならないと思っておりますので、気軽に相談できる場でありたいなと私も思っておりますが、そういった雰囲気の情報発信も含めてつくっていききたいなというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

今、課長からもお話あったんですけれども、やっぱり子育てのことで悩んだりしたときに市役所にいきなり相談に来るとするのは、すごくハードルが高いことかと想像いたします。そこで、子育てに関わることは、全てここに聞けば答えてもらえるというような、関係団体だったり子育てサークル、そういったものが育ってきて、市役所の外にもそういう人がいて、相談できるという環境が理想的だと思うんですけれども、子育て世代包括支援センター事業もそういった、例えば法人が育ったらになるかもしれないんですけれども、外部に委託したりするような事業として考えてよろしいでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

ご承知かもしれませんが、上越市にも、上越市の子育ての相談機能というものをNPOの方が賄っているという例もあります。糸魚川市は、以前からNPOというのが、あまり存在はしていなかったのですが、ここに来てNPOを組織する方も出てきていただけましたので、そういったと

ころも連携しながら、市としてはそういったところも、ちょっと言葉適当じゃないかもしれませんが、育っていただいて、個人情報がありますので非常に難しい面もありますけれども、そういったところと連携してやっていくというのは、理想の形ではないかなというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

ありがとうございました。そういうふうに外部でも相談できる人がいると、急に保健師さんに話すとかというのではなくて、その話だったら市役所内の何とかさんだねというふうにワンクッション入ってくれる人がいると、より子育てしている方にとって使いやすいものだと思いますので、ぜひ市内でそういった団体サークルが育ってくることを私も願っております。

最後に、年々少しずつ、残念ながら減少傾向の市内の出生数、止まらない少子化ですが、だからといって子育て支援をおざなりにするのでは、ますます地域が衰退の一途をたどるばかりだと考えます。子育て支援には、何も金銭的な施策だけが必要だとは考えておりません。きめ細やかなソフト的なものも必要かと思えます。そういったものをぜひ思い切って講じていただきたいと思います。市長のお考えを最後、お願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

議員ご指摘のようにやはり糸魚川市において、非常に今出産数が減少いたしております。やはり地域の持続可能なまちづくりについては、やはり子供さんがいないのは、一番大きな課題だと思っております。それに対しては、しっかり対応していきたい。要するに教育についても同じでございますが、そういった子育て教育にしっかりと対応してまいりたいと思っております。

また、妊娠して、安心して産める環境も絶対大切だと思っておる次第でございます。今唯一残っておる糸魚川総合病院においても、産婦人科は決してなくてはいけないという気持ちで取り組んでおりますので、これからもこのまま引き継ぎながら、しっかり行っていきたいと思っております。議員の皆様方からもよろしくお願ひしたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

ありがとうございます。終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。

暫時休憩いたします。再開を2時5分といたします。